

# 令和3年度 第1回 エルシーブイ放送番組審議会

■開催日時 令和3年6月25日(金) 午後1時30分～午後3時00分

■場 所 エルシーブイ株式会社 会議室 及び リモート会議

■出席者 委員総数 5名

出席委員 (5名)

出席委員	市川 純章	委員
	河西 滋子	委員
	杉本 研一	委員
	井上 淳哉	委員
	菊池 大介	委員

放送事業者側 (7名)

深井 賀博	代表取締役社長
大野 弘信	専務取締役
佐久 章展	放送制作部長
小池 利幸	放送制作部 報道課長
八幡 聡	放送制作部 企画広告課長
吉田 和晃	放送制作部 FM制作課長
桑原 一	放送制作部 制作課
内藤 由里子	事務局

(8名)

## ■議 事

### 1. 審議事項

番組審議 『人生はロマン イロドリ喫茶』（隔週更新 15 分番組）

<委員からの主な意見>

評価意見

<構成について>

- ・地域密着型の CATV という事で、LCV の特性を活かした地域振興に繋がる番組作りという意味では、この企画は大変好ましく思った。
  - ・地域資源を上手に再発見して、またそれを多くの人に再認識させるように活躍している地域の方達を取り上げているという点は、LCV のやり方としては大変好ましく感じている。
  - ・徹子の部屋のようにパーソナリティの方の個性を使ってゲストの魅力を引き出すというやり方なのでキサさんは、番組に上手にはまっているように感じた。
  - ・LCVらしい良い企画なので、これからもキラキラした人をどんどん登場させてほしいと思う。
  - ・是非、長寿番組に育てて欲しいと思いました。
  - ・全体的な印象としては久しぶりに安心して見ていられ、今までの審議番組に比べて気になるところが少なかった。
  - ・内容としては地元の方を使われているので面白く、当たり障りのない番組なのかなと思った。
  - ・トーク番組なので、画面の角度はあまり重要ではなく、不快なく飽きない感じだった。
  - ・ローアングルの顔アップは昔で言えばキツイが、トーク番組の中なので番組の切り替えのリズムとして違和感なく見られ、効率の良いパフォーマンスの高い番組制作だと感じた。
  - ・地域密着で良い番組なので、こういうタイプの番組をたくさん作っていくのも良いと思った。
  - ・当たり障りのない番組だと思って見ていたので、内容がどうこうと言うよりも楽しくトークしている 15 分間で、「そんな事もあるんだ」とか「この人は、ちょっと不思議だな」など色々な人の想いを感じることが出来ると思う。
- LCVが制作する深い企画番組とは違い、「徹子の部屋」のような感覚で、決まった時間枠で話を聞き出してすごく見やすく良かったと思う。

<番組尺について>

- ・15 分という尺は、長すぎずに見ていられる良い感覚だった。
- ・今まで 1 つの事をダラダラと長くやる印象がある中で、1 人のゲストの全体の話をも 15 分ずつ区切ることで、次にどうなるのだろうというような想像が出来て良かったのではないかと思った。
- ・収録が長くなった時には回数を分ける作り方は、後付けでいかようにもできるうまいやり方だと思う。

<テロップについて>

- ・番組の中のテロップの字の大きさは、大きくて分かりやすかった。
- ・文字は、前よりも見やすくなった。
- ・露出時間も普段より長く出ていたので、丁度よく感じた。
- ・テロップに発言内容が所々差し込まれていて理解を深めるように誘導していたのは良かった。
- ・情報量がある番組として、テロップを多用することで情報がまとめられて良いと思った。
- ・話題の転換時に大きな文字でポイント画面を作って切り替える手法はすごく見やすくなるので良いと思った。

□指摘意見

<今回視聴した放送回の内容について>

(ゲスト)アニマルコミュニケーション講師 フリーアナウンサー 谷岡恵理子

- ・アニマルコミュニケーションの肩書がよくわからないうちにはじめてしまったので、実際に動物と話している映像があった方が、谷岡さんにとっては良かったのではないかと思った。
- ・アニマルコミュニケーションの実態が分かるような映像を入れるとわかりやすい。
- ・アニマルコミュニケーション以外の話題も豊富だったので、肩書が弱く感じられた。
- ・途中でご主人が出たが、紹介がなかったので関係性が不明で違和感があった。最初から人物を紹介したほうが良い。
- ・谷岡さんのご主人がマスクをしていなかったのが、感染症対応をしっかりとされた方が良かったのではないかと感じた。

<テロップについて>

- ・テロップの色はもう少し綺麗な方が良いと思う。
- ・画面の中央に「イロドリ喫茶」の元々の看板が写っているのに、画面右下にも「イロドリ喫茶」のテロップが常時出ているが、ダブっているので右下のテロップは必要ないのではないかと感じた。
- ・ゲストやイベントの連絡先が表示されたが、視聴者に連絡先をメモしてほしいという意味であれば文字は小さく、露出時間も短い気がする。QRコードを読み込むような方法も良いのではないか。
- ・文字の色を何色も使っているのが、見づらかった。一色で統一した方が見やすいと感じた。
- ・テロップをしっかり読ませる場合の文字は出来るだけ単色が良い。
- ・文字がもう少しシンプルになると、逆に気にならずトーク自体の賑やかさで結果、イロドリを感じるのではと思った。

<構成について>

- ・出演者を映すカメラアングルが下から撮られていて気になった。
- ・キサさんが着ている着物は、古美術店から提供を受けているそうだが、もう少し古い着物を提供して頂いても番組として面白いのではないかと思った。
- ・対面なのにアクリル板などが一切、使われていなかった事は気になった。感染防止のためにアクリル板は置いた方が良いのではないか。

- ・冒頭で視聴者がゲストの情報をいくつか得られると、そのまま面白いところまで見続けてくれるのではと思った。
- ・楽しい人を紹介しているが、情報発信という点ではもう少し練っても良いのではと感じた。
- ・地域密着なので、番組を見終わった後に視聴者とも関わられるような人を紹介したら良いと思う。
- ・知らない人を紹介しているのだから、視聴者との関係性や繋がりを意識してゲストを選ぶと良いのではないかと思った。
- ・ゲストの特徴を理解して話を掘り下げないとつまらない会話になってしまう。

#### □アクリル板の設置とマスク着用についてについて

- ・キー局がどうやっているか？というところが、今の日本の最低ラインなのではと感じる。
- ・アクリル板を設置する場合：座りの場合は、アクリル板やスタンドアップのスクリーンのクリアシート板が設置されていれば、マスクを着用しなくても良い。
- ・マスク着用の場合：ロケなどでアクリル板を設置出来ない場合は、着用。

・自身がゲストで番組出演させて頂いた際に、なるべくキサさんの方に向かって大声を出さないようにしようと最初は意識していたが、キサさんも載せ上手で話しやすくしてくれるので、オンエアの通り結構話してしまった。

ゲストはしゃべりのプロではないので、アクリル板など装置的な感染予防対策をしておく必要もあるのではと感じた。

- ・出演者の表情が分かるようにする事は、すごく大事だと思う。
- 卓上にアクションカムを置いているのも、そういう意図もあると思う。
- 表情を隠れないようにするのであれば、最低限アクリル板の設置が必要だと思う。

#### □その他

- ・この番組の特徴が、良くも悪くも予測不可能というか、誰が来て何の話をするかというのが出演者リストをみてもわからないところが地域密着でありながら報道と違う色なのかなと思う。
- ・すごく話しが深く、後半になるにつれどんどん面白くなっていくが、前半で興味ないなと思って見るのを止めてしまう人をどうやって最後まで見させるかという事が、この番組の場合のポイントかなと思った。
- ・どこに番組の重きを置くかという問題で、人物そのものに焦点を当ててその人のやっている事を15分という限られた時間の中で紹介するので、割り切りはあってもいいのかもしれない。
- ・「人に寄せるのか、地域に寄せるのか」何かしら地域との繋がりがあられる方ばかりなので、そこをどうバランスで組み込んでいくかということだと思う。
- ・番組として伝わる事も大事だが、キサさんという聞き手のパーソナリティが、しっかりでてくる事がこの番組の一つの強みなのかなと(出させてもらった側としても、見ている側としても)思った。
- ・キサさんが、この人をどう料理したいかというのが、聞く人にとっても刺さるものになるのかなと思った。

•FMのトーク番組のTV版だと思っていて、パーソナリティの視点が違う分だけバリエーションがある同  
パターン番組、TVもキサさんでないイロドリ喫茶風の番組が増やせるのかもしれない。  
少ないスタッフ、少ない制作費で効果的な番組がたくさん作れる作戦なのではと思った。